

## 会 議 録

会議の名称	令和5年5月定例教育委員会		
開催日時	令和5年5月22日 14時30分開会 16時17分開会		
開催場所	つくば市役所本庁舎4階 会議室401		
事務局	教育局教育総務課		
出席者	委員	教育長 森田 充 委員 倉田 廣之 委員 柳瀬 敬 委員 和泉 なおこ 委員 成島 美穂	
	委員以外の出席者	教育局次長 教育総務課長 学務課長 教育施設課長補佐 健康教育課長 学び推進課長 特別支援教育推進室長 総合教育研究所長 教育相談センター所長 生涯学習推進課長 文化財課長 中央図書館副館長 市民部スポーツ施設課長 教育局企画監	久保田 靖彦 山岡 めぐみ 下田 裕久 飯泉 法男 柳町 優子 岡野 知樹 中島 澄枝 山田 聡 久松 和則 澤頭 由紀子 石橋 充 沼尻 祐一 武笠 健一 青木 孝之
公開・非公開	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	2人
会議次第及び議事	1 開会 2 議事録承認 3 教育長の報告 4 案件 (1)議案第34号 つくば市奨学生選考委員会委員の任命について（非公開）		

	(2) 議案第 35 号 令和 4 年度一般会計予算継続費繰越計算書案に同意することについて（非公開）
	(3) 議案第 36 号 令和 4 年度一般会計予算繰越明許費繰越計算書案に同意することについて（非公開）
	(4) 議案第 37 号 つくば市学校開放条例案に同意することについて（非公開）
	(5) 議案第 38 号 つくば市民・学校プール条例を制定する条例案に同意することについて（非公開）
	(6) 報告第 17 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（学校評議員の委嘱について）（非公開）
	(7) 報告第 18 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分）（非公開）
	5 その他
	6 閉会

### ◎会議の概要

1 開会	
森田教育長	つくば市教育委員会 5 月定例会を開催いたします。お忙しいところ、また総合教育会議に引き続きご出席いただきまして、ありがとうございます。スムーズに進行したいと思いますので、ご協力よろしくお願ひします。
2 議事録の承認	
森田教育長	では初めに議事録の承認です。令和 5 年 4 月定例会議事録を委員の皆様事前に確認していただいておりますが、その後の修正がないようでしたら、承認することとしたいと思います。よろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	それでは内容を承認することとします。今回の署名人を倉田委員にお願いいたしますので、よろしくお願ひいたします。
3 教育長の報告	
森田教育長	続きまして、3 の教育長の報告でございます。今回は行事関係になります。

	<p>まずは9年生の修学旅行ですが、17校中15校が4月中旬から下旬にかけて終了しました。学園の森義務教育学校と研究学園中学校の2校が5月21日日曜日現在行っているところです。旅館や交通機関の協力を得ながら、感染対策を十分に行って、修学旅行を実施したと報告を受けております。今年の9年生は新型コロナウイルス感染症拡大のため、行事が中止・縮小となってしまうことがあり、残念な思いをしてきたわけですが、今回修学旅行が通常通りできたということで、多くの保護者も生徒も大変喜んでいただいているということです。今後の予定としましては、6年生の修学旅行、これは6月から12月で非常に幅広いのですが、こちらを実施予定となっております。引き続き感染対策を行いながら、実施できるよう教育局としても支援をしていきたいと思っています。</p> <p>それから運動会・体育祭です。小学校と義務教育学校前期課程では5月から11月と時期が幅広いわけですが、5月と6月に実施する学校もあり、小野川小学校がすでに5月20日土曜日に実施したということです。お昼を待たずに実施したり、低学年と高学年に分けて学年ごとに実施したりなど、工夫をそれぞれされているようです。ただ、校長たちには、何のためにこの行事をやっているのかをよく考えなさいと言っています。それでまたゼロから考えると、元通りにするというのもあるでしょうし。コロナ禍で短縮、簡単にしたものをそのまま続けることが良いかどうかは、しっかり考えないと駄目だよと話しました。それぞれの学校がこれから内容を工夫していただけるものと思います。中学校でも、竹園東中学校など、春先に実施する学校でそれぞれスタートしているところです。私の報告は以上でございます。</p> <p>それでは案件の方に入ります。本日の案件は、議案が5件、報告が2件になります。議案は第34号が人事案件、第35号から第38号までが議会案件となり、また、報告の2件はどちらも個人情報を含む人事案件となりますので、今回はすべて非公開案件としたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。
森田教育長	それではそのように進めたいと思います。傍聴人の方は退出されたのですね。はい。ありがとうございました。

(1) 議案第 34 号 つくば市奨学生選考委員会委員の任命について (非公開)	
森田教育長	議案第 34 号、教育総務課お願いします。
山岡教育総務課 長	(議案に対する説明)
森田教育長	ただいまの説明に関しまして、質問確認事項がありましたらお願いいたします。はい、どうぞ。
	(議案に対する質疑応答)
森田教育長	では、選考委員会委員の任命について承認してよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認することとさせていただきたいと思います。
(2) 議案第 35 号 令和 4 年度一般会計予算継続費繰越計算書案に同意することについて (非公開)	
森田教育長	議案第 35 号、教育施設課お願いします。
飯泉教育施設課 長補佐	(議案に対する説明)
森田教育長	続いて市民部スポーツ施設課、お願いします。
武笠スポーツ施 設課長	(議案に対する説明)
森田教育長	はい。ただいまの説明に、質問がありましたらお願いしたいと思いま す。
	(議案に対する質疑応答)
森田教育長	他に質問はよろしいですか。では承認することでご異議ございません か。

委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものとさせていただきます。
(3)議案第 36 号	令和 4 年度一般会計予算繰越明許費繰越計算書案に同意することについて（非公開）
森田教育長	議案第 36 号、教育施設課お願いします。
飯泉教育施設課 長補佐	（議案に対する説明）
森田教育長	ただいまの説明に質問確認事項がありましたらお願いします。
	（議案に対する質疑応答）
森田教育長	他はよろしいでしょうか。では承認することとしてよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものとさせていただきます。
(4)議案第 37 号	つくば市学校開放条例案に同意することについて（非公開）
森田教育長	議案第 37 号、教育総務課お願いします。
山岡教育総務課 長	（議案に対する説明）
森田教育長	何か質問がありましたら、お願いしたいと思います。
	（議案に対する質疑応答）
森田教育長	他はいかがでしょう。よろしいですか。承認することにご異議はございませんか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものとさせていただきます。

(5)議案第 38 号 つくば市民・学校プール条例を制定する条例案に同意することについて (非公開)	
森田教育長	議案の第 38 号、市民部スポーツ施設課お願いいたします。
武笠スポーツ施設課長	(議案に対する説明)
森田教育長	はい。質問確認事項がありましたら、お願いしたいと思います。
	(議案に対する質疑応答)
森田教育長	他はいかがでしょうか。よろしいですか。では承認することとしてよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものとさせていただきます。
(6)報告第 17 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について (学校評議員の委嘱について) (非公開)	
森田教育長	では報告案件に移ります。報告第 17 号、教育総務課お願いします。
山岡教育総務課長	(議案に対する説明)
森田教育長	はい。何か質問確認事項がありましたらお願いします。
	(議案に対する質疑応答)
森田教育長	では承認することとしてよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	では、報告第 17 号は承認するものとさせていただきます。
(7)報告第 18 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について (つくば市教育委員会職員の分限処分) (非公開)	

森田教育長	報告第 18 号、教育総務課お願いします。
山岡教育総務課 長	(議案に対する説明)
森田教育長	確認質問事項がありましたら、お願いしたいと思います。よろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	ではこのとおりとさせていただきます。
5 その他	
森田教育長	<p>以上で用意された案件の方は滞りなく終了することができましたので、5のその他に入ります。傍聴人の方はいらっしゃいますか。大丈夫ですか。</p> <p>委員の皆様から何か提案や、今後こういうことを知りたいなど、ありましたらお願いしたいと思います。</p>
柳瀬委員	<p>不登校支援の件です。情報はかなり流れているかと思いますが、最終的には教育委員会での承認を経て要綱などを決定するはずです。率直に現時点で何が問題、課題になってますでしょうか。5月中には要綱が公表されるということでしたが、まだ案の段階だと思います。具体的に対象になるような団体には、情報が流れているということですが、公表に至らない理由、課題や問題となっていることがあれば率直に言っていただければと思います。もし止めておかななくてはいけないのであれば止めとめておいていただいて良いのですが。</p>
森田教育長	<p>施設支援と直接の利用者支援についてですね。</p>
久保田教育局次 長	<p>施設補助の方は、概ね公表に近いところまで来ております。法務課での最終審査の段階でして、おそらく今月中には公表できるかと思っています。概ね皆さんに報告差し上げた内容から変わっていませんが、手続きや支払い方法などについて、スケジュール感の最終調整をしているところですので。支払いは概算払いという形で、事前にお金をお支払いして最</p>

	<p>後に精算する形を予定しております。個人の補助については交付金という形で1人2万円とする予定です。どのような施設を対象とするかについても、概ね整理がついている状況でございます。こちらも支払いのタイミングについて、4か月に一度とするのか、3か月に一度とするのか、その辺りの微調整をしているところでございます。両制度とも、4月にさかのぼって1年度分をお支払いできるように調整しております。法務課には我々の考えていることを条文化するにあたって、より適切な文言へ修正いただくなどしています。個人補助についても、おそらく6月には公表できるかというところでございます。</p>
柳瀬委員	<p>要件を満たすかどうかは事業所の皆さんが一番気になっているところですよ。事業所の場合は今の段階では何人以上の規模になっていますか。</p>
久保田教育局次長	<p>市内の利用者の人数が4人です。</p>
柳瀬委員	<p>保護者支援の対象施設は5人と聞きましたが、こちらは何人になっていますか。まだ決まっていないのですか。</p>
久保田教育局次長	<p>失礼いたしました。4人でなく、いずれも現在5人で最終調整をしております。</p>
柳瀬委員	<p>そうすると、施設補助等と同じ規模が求められることになるので、ハードルが高いように思います。個別支援の場合は少しハードルを下げ、3人でも良いかと思います。周辺地区で他の自治体に近い場所では、市内の子供が少なく、市外の子が多い施設もあると思います。そう考えると、人数の要件を同じとするのではなくて、個別支援のハードルが低い方が良いと思います。ですので、施設補助の要件を5人とするのであれば、個別支援の要件は3人とするのが良いと思います。人数の要件は、施設にとって一つの大きな分岐点になります。あまり要件のハードル高いと、子供を募集して集めなくてはいけないという流れができてしまうと思うので、それは避けてほしいと思います。学校とフリースクールを行ったり来たりする子供が出てくると思うので、そのハード</p>



久保田教育局次長	<p>ルはできるだけ下げてあげた方が良くと思います。学校に戻ったほうが良い子、フリースクールに来た方が良い子がいる中で、両方を行ったり来たりする子が出てくることはもう目に見えていますので。</p>
久保田教育局次長	<p>ありがとうございます。最終的な数字のところの調整については、これからどこまでできるかを担当に確認したいと思います。柳瀬委員がおっしゃったように、これまでのむすびつくば、ここにこ広場の例を見ても、学校とフリースクールを行ったり来たりする子供が多いことは把握しております。フリースクールの方々からは、どのタイミングでスクールを辞めていただくのが良いのかという相談を受けることがありまして、できる限り子供たちが戻ってくる場所として継続して利用できるような環境を整えて欲しいという言い方をしております。</p> <p>つまり、その分のかかった費用は、我々の補助の対象にするように考えておりますので、たとえばフリースクールには所属だけして学校に行っている子であっても、フリースクールへ月謝を支払っている以上は、その費用を補助したいと考えています。継続して数カ月通っていなくても、籍を置けるような形で調整していただくようにしようと考えています。</p>
柳瀬委員	<p>検討会議の議論の中で、実績補助なのか、外形補助というか、枠組みで補助するのかについて話し合った際に、両方組み合わせないと難しいでしょうねという意見が出てきたと思います。ただ、あまり実績補助にこだわると、現場としてはやりにくいですね。行ったり来たりしている子たちに、おおらかに居場所を提供するということを考えると。地域活動支援センターでは年間の定員に応じて補助金が決まっていますが、そのように、枠組みで補助することについてははっきりと言ってあげるのが良いと思います。実績補助と言われた瞬間に、現場は少しドキッとします。</p>
久保田教育局次長	<p>おっしゃるとおりだと思います。特に春先は頑張って学校に行く子供が多い状況で、例えば30人登録していても、事実上そのスクールに来てしているのは、数人という事業所が結構多いです。むすびつくばでも、4月5月はかなり通所生が少ない状態で、ここにこ広場も全く同じような状</p>

	<p>況だと聞いています。</p> <p>ですので、我々の補助の対象としては、何人登録してあってそこに来られる環境を整えているか、で考えています。来ていない子に対しても施設でフォローアップをしていると思いますので、そういった形で支援が届いているような状況であれば、対象として認める方向で考えています。通所の実績というよりは、何人登録があつてフォローできているかを重要視していきます。</p>
柳瀬委員	<p>ありがとうございます。そのようにしていただけると良いと思います。何人登録できるのかについては、施設のキャパやスタッフの数の問題になるので、そこから割り出して判断することになりますね。補助金を貰うために多く登録していないかをチェックすることは必要だと思います。現場の実際の状況を把握できていないと、適正かどうかというのはなかなか判断しにくいですね。問題事例が出ないことを期待していますが、問題のある事案が出てきそうな場合は、事前にチェックしていただきたいなと思いました。よろしくお願いします</p>
森田教育長	<p>そうですね。そういった事案を予防することも大事ですからね。他はありますか。はい、和泉委員どうぞ。</p>
和泉委員	<p>はい。引き続き不登校支援についてです。</p> <p>校内フリースクールのこの1ヶ月間の状況についてお聞きしたいです。何名通うようになったのか、どのような懸案事項が上がってきているのかなど、小学校と中学校でそれぞれお聞きしたいです。また、去年本当に痛感したのですが、やはり現状把握ありきだと思いました。去年のアンケートはその意味で本当に意味が大きかったのですが、今年度はどのような現状把握を考えているのかを知りたいです。</p>
森田教育長	<p>はい、教育相談センター長。</p>
久松教育相談センター長	<p>まだ聞けていない学校もあるのですが、大体1名から5名ぐらいの通級生がいます。本当に学校によって状況は違うのですが、その中には、昨年度160日以上欠席している子供や、ほぼ全欠席だった子供も含まれ</p>

<p>久保田教育局次長</p>	<p>ています。いまは子供たちの居場所とすることを第一に考えているので。子供たちができることを優先して行っています。ただ、懸案事項としましては、何か目標がないとどうしてもマンネリ化してしまって、居場所にはなっていないもなかなか毎日通うというところまでいかないような現状もあるということです。ですので、何か目標を持たせるというところと、居場所であるというところの、その兼ね合いが難しいという話を聞いています。あとは環境面ですが、実際に運営してみると、学校によっては教室の場所的に子供たちにとっては不便な場所になっているかもしれないと聞くので、その辺りは来年度以降検討していこうと思っています。</p> <p>あとは、研修も課題になってくるかと思います。今年度始めにモデル校の実践をもとに研修を行って、それをもとに現場で実践していただいているのですが、特に小学校に関しては、中学校がモデル校だったこともあり、少々性質が違うかもしれないというところはあるようです。私が小学校に行った時には、なかなか対面で話をするのができないような子供もいまして、子供たちが慣れるまでには少し時間を要すると思われました。支援員のあり方に関しては、学校によって特性が異なり、子供たちに近い支援員がいる方が良い学校もあれば、先生がいて学習を見てくれる方が良い学校もありますので、その辺りを踏まえて研修の持ち方を今後考えていかなければいけないと感じております。</p> <p>不登校の実数把握につきましては、速報値ではありますが、昨年度の不登校の児童生徒数は838人でした。一昨年が約600人でしたので、また200人ほど増えているということですね。年間200人ずつ増えるような推移をしていて、このままだと本当に右肩上がりになっていってしまうというところですね。それを踏まえて今年度いくつか重点的に施策を打つというところでスタートしたわけですが、当然ながらまだ我々の支援が届かない部分も出てくると想定しています。ですので、どこかのタイミングでまた今年実施したような形のアンケート調査は必要かと思っています。その調査でまた新たに対応が必要なものが出てくるかと思っています。特に昨年度、教育委員の皆さんにいろいろな意見を出していただいて、大きく八つの政策という形でまとめていただきましたが、在家庭の方の支援はアウトリーチも含めてまだ足りていないところがあり、</p>
-----------------	---

	<p>そういったものが今年度新たにアンケートを取ることでまた表に出てくる可能性があると思っています。これは繰り返しになりますが、アンケート調査によって不足している部分を把握し、その部分について次の施策を打っていくべきかと思っています。アンケートの結果等を踏まえて、委員の皆さんにアイデアを頂いたり、議論する場を設けたりという形もあると思いますので、去年のように集中的に十数回会議をするというよりは、アンケートの結果や補助制度、支援制度に対する意見をピックアップして、委員の皆さんと議論できればと思っています。</p>
森田教育長	<p>はい、どうぞ。</p>
柳瀬委員	<p>メールでも少し書きましたが、居場所について考える際には、居心地の良さが大切だと思います。学校や教室の居心地が悪いという子供がよくいますが、これは不登校支援の対症療法だけで解決できるものではなく、学校の居心地の良さとは何かを考え直すような全体の動きが欲しいと思いました。居心地の悪さというのは、服の着心地の良さ悪さと同じように、人間は常に感じているものだと思います。子供たちにとっての居心地の良さ悪さというのは、とても主観的なものになりますが、建物を含めた雰囲気や学校の先生のあり方、先生の感じなどが影響しているもののように思います。</p> <p>研修については、むすびつくばライズ学園からの提案を受けて実施したということでしたが、ライズ学園は学習障害や読み書き障害への対応が非常に得意なので、その点を積極的に取り入れるのは良いことだと思います。一方で、もっと居心地について考えてほしいとも思いました。研修の行い方も難しいかと思えます。現場はどうすれば良いか分からないという状況が結構あるわけですね、特に小学校の場合は。</p>
岡野学び推進課長	<p>そうですね。それぞれの学校での課題や、こういったところを教えて欲しいという要望は多いのですが、やはりそれは本当に学校の特性によって全く違っている状態で、それをまとめた研修となるとどのような研修が望ましいのかを手探りで考えている状態です。</p>

倉田委員	<p>私は一人一人のケースをしっかりと把握して対応するためには、物的及び人的環境の整備が一番大切だと思います。ですので、一人一人に対して異なる対応をとることができるような体制づくりが必要かと思いません。</p>
柳瀬委員	<p>まさにそのとおりだと思います。小中学生ぐらいになると、ある意味で子供たちというのはすごく適応能力があって、そのために適応してしまっている面があると思います。そのことによって自分を殺してしまっているようにも思います。表現の仕方についても、自由になっているかというところではなくて、表現の仕方を学習してしまっているように感じます。あまり素直なタイプの人間ではないので、挨拶運動などは嫌なタイプなのですが、子供たちがおはようございますと素直に言うてくれるのは、小さな子供が言うてくれる分には大人に言われてやっているのだなと納得できるのです。ただ、中学生ぐらいになるとかなり自我が発達してくるので、あまり素直には言えないはずなのですよね。それなのにおはようございますと言われると、すごく学校に適応しようとしていると感じてしまいます。学校の先生たちはどう思っているのですかね。倉田先生、どうですか。そう感じないですか。</p>
倉田委員	<p>確かにそうですね。環境を変えるというか、いつも同じような感じでマンネリ化してしまうのではなく、いろいろと環境を変えて、どういった反応を示すか、どういったことを自分で判断できるかなどを探っていく、そういった挑戦的な試みが必要だと思います。同じパターンが続くことが、かえってマイナスの影響を及ぼしている場合も非常に多いので。</p>
柳瀬委員	<p>そうですね。すごく従順で良い子が突然不登校になるようなケースはありますからね。おそらく心のどこかに嫌だという気持ちが溜まってしまっていることがその原因なのでしょうが、そういった子供たちの姿を見て、誰かが声をかけてあげないと気持ちは楽にならないのではないかと思います。</p>
倉田委員	<p>全くそのとおりだと思います。自分はこう変わっても大丈夫なのだ、</p>

柳瀬委員	<p>と自分で選択できるように少しでも仕向けてあげる、気づかせてあげる体制は当然必要なのです。そのように教師が意識をして、働きかけをすることで、子供が自分で変わっていくのではないかと思います。</p> <p>そうですね、それで居心地の良さ悪さというのがキーワードかと思いました。</p>
森田教育長	<p>同調主義を求められた時に、自分の意思を殺してまで同調しなくてはいけないとなってしまうと、居心地の悪さに繋がりますからね。その点については、先生方にもっと意識してもらう必要があると思います。</p> <p>フリースクールについては、来月あたりに少し整理をしてお知らせしようかと思っていました。その前に学校ごとにニーズなどを整理しておきたいと思います。</p> <p>はい。他にもしあれば。はい。成島委員どうぞ。</p>
成島委員	<p>各学校で違うとは思いますが、コロナ禍でオンライン化が進んだことで、保護者が学校に集まって対面する機会がかなり減ったと思います。今年度、PTA 総会などを対面で行った学校もある一方で、私の子供が通っている学校は Zoom で行って、対面化を進めるべきではないかと思いました。同じ学級の保護者について全くわからない状態で1年が終わることがずっと続いていたので、子供たち同士のトラブルの話を聞いても、誰のことかよくわからない状態です。担任の先生との繋がりも薄い状態で、希望を出した保護者のみが対面する機会が年に2回あるのみで、スクリレなどで細かい事情を話すことはできるのですが、信頼関係の作り方が一方的になってしまう気がします。教育局として、対面で行うことを進めるように言っても良いのではないかと思います。学校長の判断することであるとは思いますが。</p>
森田教育長	<p>大事なことですよね。前にも話しましたが、何でもコロナ禍で変わって、手間がかからなくて良いという話になってしまうと、それは教育とは言えないですからね。何のためにやっているのか、もう一度どのように改善すべきかを考えなくてはいけないのです。直接関係する話ではないですが、飲み会を開かなくなって、非常に楽になったという声があり</p>

	<p>ます。一方で、飲み会を何のために開いていたのかを考えると、大勢でざくばらんに話す機会があつて良かったという声もあるはずです。そういったことを全部含めて、何のために行っていかを考えると駄目だという話をこの間の校長会でしました。PTAに話を戻すと、PTAはもともと学校から伝えることや学校を理解してもらうことだけでなく、保護者同士が顔を合わせることも大事な目的だったのですよね。そういったことをもう一度考えて、いまベストな方法とは何なのかを考えてほしいのです。</p>
成島委員	<p>保護者へのサービスのようにはしてほしくないと思っていて、一緒に子供のために考えましょう、と少し力強く進めてもらえると良いと考えています。あまり保護者に寄り添ってしまうと、どんどん楽な方に向かってしまって、学校にお任せしますとなる気がします。信頼できなくて文句だけが出てくるような状況ではなくて、信頼関係のもとに子供のためにというのをもう少し強くしていけると良いのではないのでしょうか。保護者はもちろん大変ですが、大変だという個人の意見を優先していると、結局先生の仕事がサービス業になってしまうわけで、それは良くないと思います。子供のためにということを保護者にも理解してもらうという姿勢で、このタイミングぐらいは学校に来ましょうということで、つくば市全体でできると良いと思います。</p>
森田教育長	<p>まさにそうだと思います。</p>
柳瀬委員	<p>教育長もおそらく十分に分かっている所以说ってくれると思います。先生たちの立場からすると、モンスターペアレントという言葉が随分と言われた辺りから、先生たちもすごく傷ついているのですよね。保護者が良い人たちばかりではないと分かってきたわけです。先生たちは頼られる存在で、保護者から強く言われることもあるわけですが、それによって傷ついてしまって、その傷を修復するのに時間がかかっていると思います。コロナ禍がある意味でモラトリアムになってしまいましたよね。そういったことから少しの間離れられたわけですが、もう一度立て直して、保護者と良い関係を築くことができるかを先生たちもすごく気にしているのだと思います。もちろん対面で実施するのが良いのは当然</p>

和泉委員	<p>ですが、先生たちが恐れず、自信を持ってやってくれるかですよね。</p> <p>先生に対して攻撃的な保護者もいますからね。それで先生が弱い立場になってしまったりして。自分たちはそうではない、と保護者の側から先生に言ってあげられると良いのですが。</p> <p>先生が一番守られていないとすごく感じています。もちろん、もっと学校や先生から保護者に対して、サービス業ではないと言ってほしいと思う一方で、先生や学校に言われなくても、保護者同士が協力し合ったり、日々の対話をしていったり、保護者だけで動けることはたくさんあると私は娘の小学校6年間を通して思いました。例えば学年委員が自発的にイベントを企画しても良いわけです。にもかかわらず、つつい先生や学校が動いてくれるのを待つという保護者の態度にも少し問題あると感じていました。例えば、お茶会を開こうと呼びかけていくと、それを聞きつけた別の保護者が楽しそうだと思って集まるということが絶対にあると思うのです。ですので、あまり学校に依存しないよう、保護者自身の考え方などを変えていくにはどうすれば良いのかも考えていました。</p>
成島委員	<p>きっかけとして強制力が必要な気がしています。そもそもその繋がりが無いわけですので。</p>
和泉委員	<p>それを作っていけるはずだと私は自分の経験で思いました。あまりかしまる必要はなくて、例えば、スーパーでばったり会った時に立ち話をして、お茶に誘うようなレベルで良いと思います。</p>
成島委員	<p>PTA 総会は、まだ対面がよかったというのが個人的な感想です。Zoomではおそらく双方向の場にはならず、報告会にしかならない、それであれば、むしろ書類だけでいいと思うのです。PTA 総会のような場で、異議を唱えたくても異議を唱えられる人はいないといえますか、だからこそ何気ない会話の中から問題を相談したりすることもあったり、逆に保護者同士だからこそ言いづらいことも多かったですりするので、どうしても先生に頼りたくなってしまう部分はあるのですよね。相談機関など別にもあるのですが。それで、行事の度に保護者同士が顔を合わせる事が本</p>



和泉委員	<p>当に減ってしまい、授業参観日ですら2部制に分かれていたりするので、面倒くさがらずに、もとに戻すのにちょうどいいところを探っていく動きに持っていけないかなって思うのですよね。</p> <p>そのPTA総会も対面でやって欲しいという思いを、学校や校長先生に伝えるときに、何をどうしたら対面でできるかという、保護者が学校と一緒にやる姿勢を持ちかける、そして、こうして欲しいという要望を一方的に伝えるのではなく、何をクリアすればできるのか、一緒に解決できることはないかという対話の仕方があれば、もう少し先に一緒に進めるのかなという気はしました。</p>
成島委員	<p>学校の規模にもよると思いますが、結局は前年度の本部役員さんが、来年度のことを決めていくので、4月時点で初めて知る事実が多すぎてついていけない中で、承認されていくという流れが、パニック状態になるといいますか。なので、春は前年度の役員の方がいろいろと用意している状況であったり、先生ですら3月まではご自身が来年度もその学校に継続しているかどうか分からない状況であったりするので、最初ぐらいは対面で校長先生から直々に説明を受けたかったなとか、そういうところから信頼関係が生まれるのではないかと思うところがありますよね。</p>
森田教育長	<p>楽しんで後で苦勞するよりは、最初に苦勞して後で楽になった方がいいだろうと、私も校長先生によくお話ししますね。でもちょっとしたことをすれば、すごくそのあとスムーズに行くことが多いのだろうと思います。そういう気持ちを保護者側の方々もお持ちであることを、よく伝えていきたいと思います。</p>
成島委員	<p>それを面倒に思う保護者の方も中にはいますけれどね。</p>
森田教育長	<p>そうですね。あとは、保護者から学校に対して積極的に、こういう意見がありますとぜひ言っていただけるといいなと思います。教育委員会にもいろいろなご意見が来るのですけれども、教育委員会ではなく、学校に直接言ってもらった方がきちんと声が届くのではないかなと思うこ</p>

	<p>とはよくありますよね。例えば、運動会を元に戻して欲しいということ、教育委員会にお伝えいただいたとしても、教育委員会から学校にこういう意見がありますよとお伝えするだけになってしまいますよね。教育委員会を経由せずに、自分の学校の校長先生に、私は戻して欲しいと思っていると直接お伝えいただいた方が、教育委員会から言われたからという場合よりも、校長先生に気持ちよく伝わると思いますね。だから、人と人の繋がりといいますか、そういうことを大事にしたいなと感じるところです。そういうことも含めて、保護者の方にそうしてくださいとお願いする部分は、やはり校長先生にお話しいただくしかないかなと思いますが、そういうことも今後お伝えしながらやっていきたいと思っています。</p>
倉田委員	<p>保護者同士の人間関係ができていれば、保護者同士で浄化できるのですよね。</p>
成島委員	<p>そうですね。学校を経由するから問題がややこしくなってしまうこともありますよね。</p>
倉田委員	<p>だから自分たちで解決していくような方向になれば、先生たちにも迷惑をかけずに問題が解決していくのですよね。</p>
森田教育長	<p>社会的なケアが、今後必要なのでしょうね。</p>
柳瀬委員	<p>コミュニティ・スクールにも期待したい部分ですね。</p>
森田教育長	<p>教育だけの問題ではなくなってきているといいますかね。</p>
和泉委員	<p>すみません、不登校支援の件でもう一つよろしいでしょうか。</p>
森田教育長	<p>はい。</p>
和泉委員	<p>先ほどの数字を聞いて、やはり不登校の子どもが増えているのだなと思いました。とりあえず今年度は、昨年度に話し合った施策を進めるの</p>

森田教育長	<p>もちろんですけども、やはり予備軍、つまり今は通っているけど、いつ長期欠席になるかわからない子どもが本当に多いなということを実感しました。先ほど柳瀬委員がおっしゃったように、学校づくりだと思う一方で、学校づくりをどうしたらいいかと考えたときに、一番その子どもと接しているのは先生だけではなくて、いろいろな支援員の人が入ってくれていると思うんですね。校内フリースクール支援員のみならず、特別支援員や生活相談員が、実は毎日いろいろと子供をじっくり見てくれていると思うので、その方々たちの声を聞きたいなと思いました。制度や施策を考えるときに、そういった方々の声を聞いてもいいのではないかという思いがあります。先生方も忙しくて、その日1日の支援員の活動をきちんと報告できないことがあると聞くことがあるので、聞き取りというほど堅苦しいものではないのですが、いろいろとやってみていかがですかというような、まさに教職員との懇談会のような形でできたら、もう少し細やかな施策の議論ができるのではないかという思いがすごくあります。</p> <p>その辺りも今後考えていきましょう。と言いましても、予算ぎりぎり契約していて、ぎりぎりの時間で給与を払っているという現状を根本的に変えなくてはいけないのですが、その予算取りがなかなか難しいというのもありますよね。</p>
6 閉会	
森田教育長	<p>本日はいろいろと貴重な意見を頂きましてありがとうございました。その他の事項においても、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。次回はもう少し具体的な数字も含めて、校内フリースクールについての提案や報告させていただければと思います。時間になりましたのでこの辺りで終了させていただきたいと思います。今日は長時間ありがとうございました。</p>

◎会議録の調製

署名年月日	令和5年(2023年) 6月21日
調製者	吉沼 正美